

地域デザインフォーラム授業評価報告

社会科専修・川瀬久美子

1. 授業の目的と内容

本フォーラムは、望ましい地域社会のあり方を考え、住民参加の意義や方法について学ぶことを目的としている。H21 年度後期は、まず、日本の地域がどのような課題を抱えて取り組んでいるのか具体的に理解するため、大江正章（2008）「地域の力―食・農・まちづくり」（岩波新書）を全員で講読した。そして、松山市道後地区を対象として、住民が戦後の道後の変容をどのようにとらえ、生活する上で現在どのような課題を抱えているのか聞き取り調査を行った。次に、観光地としての歴史が浅いながらも地域のブランド化に成功し観光開発に成果を上げている愛媛県松野町を訪問し、その発展の経緯や戦略と現在抱えている課題について明らかにした。活動の成果は、人間社会デザインコースの福祉デザインフォーラム、平和デザインフォーラムとともに報告会を開催し、発表した。

スケジュールは以下の通りである。

- 10/14 スケジュール説明・日程調整ほか
- 10/21 文献講読 1（はじめに，1 章）
- 10/28 文献講読 2（2 章，3 章，4 章）
- 11/ 4 文献講読 3（5 章，6 章）
- 11/11 文献講読 4（7 章），道後聞き取り準備（1）
- 11/18 文献講読 5（8 章），道後聞き取り準備（2）
- 11/25 道後聞き取り準備（3）
- 12/ 2 道後聞き取り調査
- 12/ 9 道後調査の整理，松野町聞き取り準備（1）
- 12/16 松野町聞き取り準備（2）
- 12/21 松野町聞き取り準備（3）
- 1/ 6 松野町聞き取り準備（4）
- 1/9-11 松野町聞き取り調査
- 1/20 松野町聞き取り調査の整理（1）
- 1/27 松野町聞き取り調査の整理（2）
- 2/ 3 3 フォーラム報告会
- 2/10 報告書作成，フォトメッセージ作成

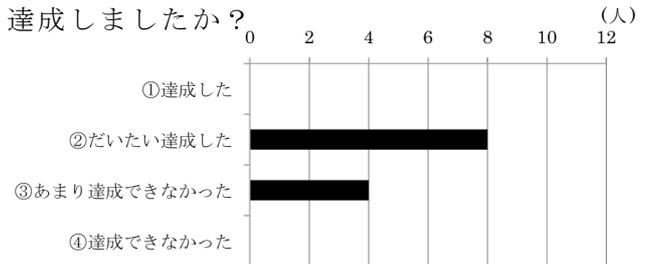
2. 授業評価法

授業内容がほぼ消化された 1 月 27 日に、

学生にアンケート用紙を配布し全受講生 12 名から回答を得た。

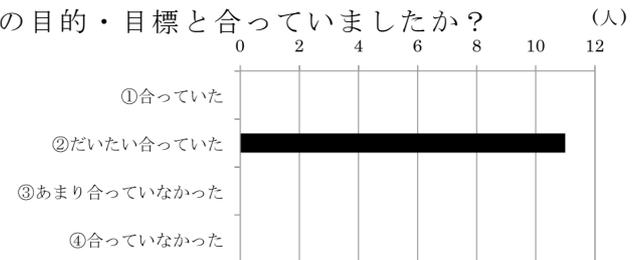
3. 授業評価結果

（1）あなたは、この授業の目的・目標を達成しましたか？

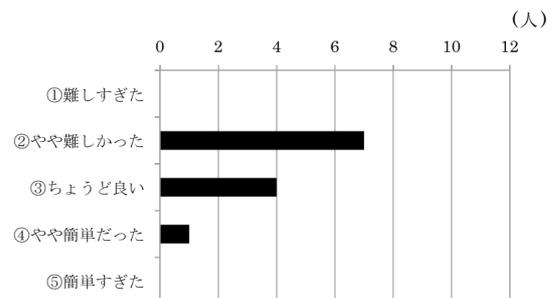


（2）文献講読について

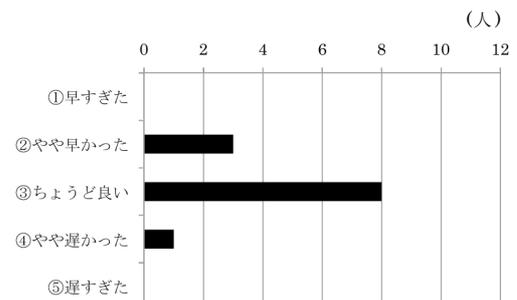
1) 文献（「地域の力」）の選定は、授業の目的・目標と合っていましたか？



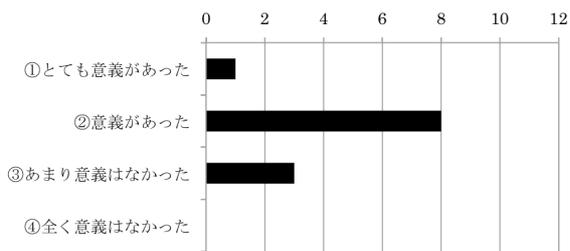
2) 文献（「地域の力」）のレベルについて、どのように感じましたか？



3) 文献（「地域の力」）をフォーラムで読み進むペースについて、どう感じましたか？



4) 文献を一人で読むのではなくフォーラムで読むことに意義がありましたか？ (人)

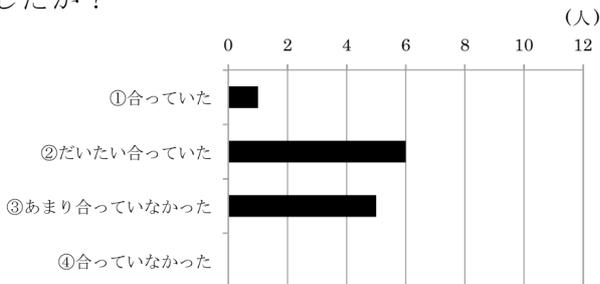


5) 文献講読でディスカッションが活発になるアイデアや、読んでみたい本など、自由に記述して下さい。

- 活発なディスカッションを行うには、レジュメ制作者以外の人にもさらっと文献を読んでおく必要があると思う。(学生①)
- 論点を明確にする。(学生②)
- カラーなイラストの載っている文献。(学生⑥)
- 強制的にでも発言させる権利をもつ学生をつくる。当てられた人は何か述べる。(学生⑦)
- 自分が興味がある本を選択し、ディスカッションしてみたい。(学生⑩)

(3) 道後の地図作業と聞き取り調査について

1) 道後温泉商店街組合の方への聞き取りは、この授業の目的・目標と合っていましたか？



2) 道後温泉商店街組合の方への聞き取りは、あなたにとって有益でしたか？



3) 道後の作業や聞き取り調査について、改善点など自由に記述して下さい。

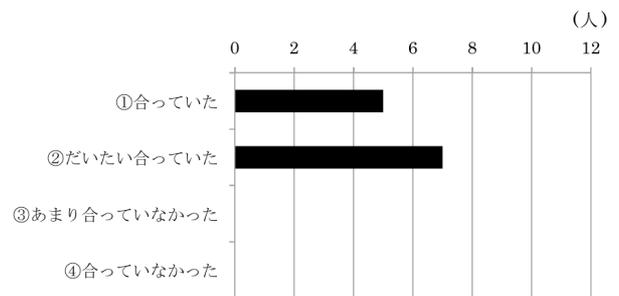
- 大雑把に話を伺うだけで、大まかなビジ

ョンしか見えなかったため、もっと内容を絞ったり、時間配分を考えるべきだった。(学生①)

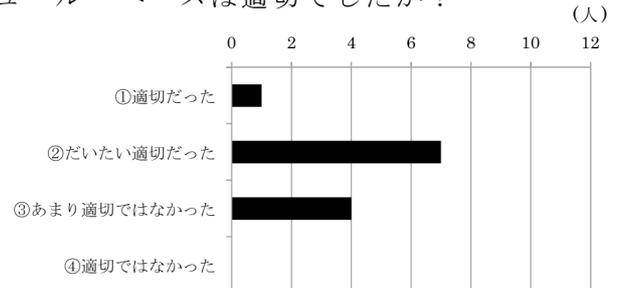
- 一人からの聞き取りでなく、幅広く聞き取るべき。(学生②)
- 商店街の方から昔のことについていろいろ聞いた。とても勉強になった。そして、昭和10年頃のビデオも見れて貴重な体験であった。(学生③)
- 事前にもっと調べておく。(学生④)
- もっとたくさんの人に聞いた方がよかったのでは。(学生⑥)
- もう少し目的のみえるようにすれば良かった。(学生⑧)

(4) 松野町フィールドワーク(松野町 FW)について

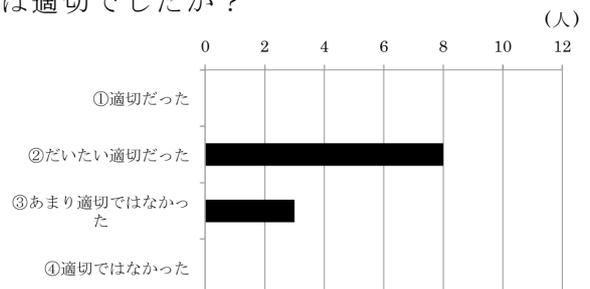
1) 松野町 FW は、この授業の目的・目標と合っていましたか？



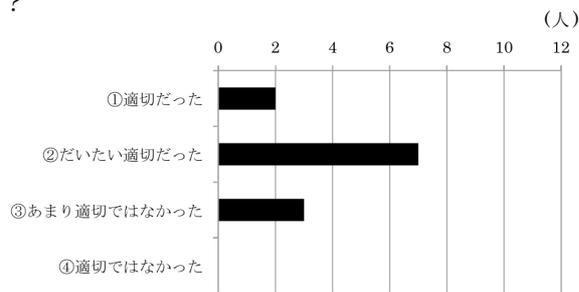
2) 松野町 FW に行くまでの準備のスケジュール・ペースは適切でしたか？



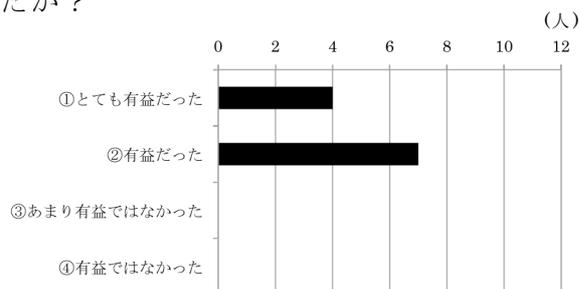
3) 松野町 FW 当日のスケジュール・ペースは適切でしたか？



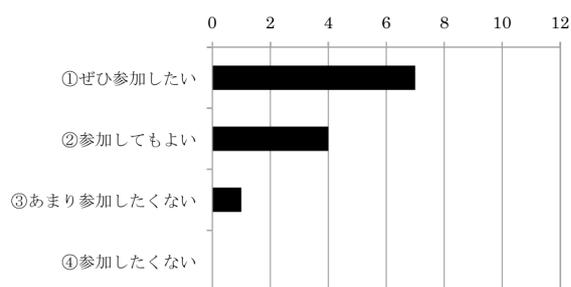
4) 松野町 FW から帰ってきて結果をまとめるスケジュール・ペースは適切でしたか？



5) 松野町 FW は、あなたにとって有益でしたか？



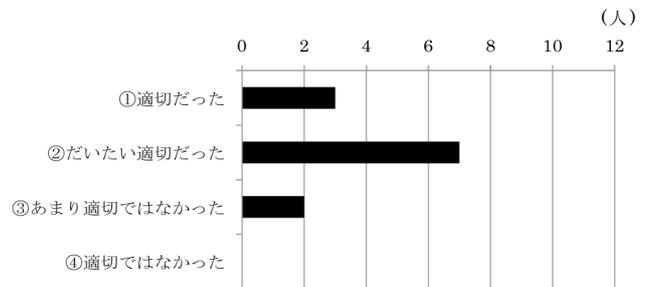
6) 松野町 FW を H22 年度前期も実施するとしたら、あなたは参加しますか？



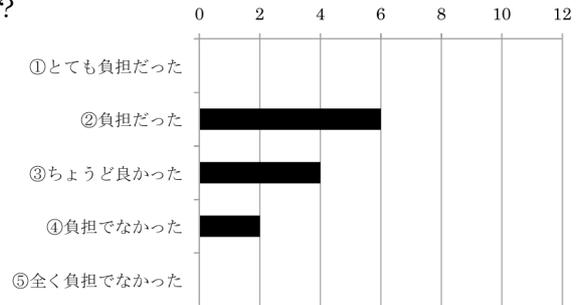
7) 松野町 FW について、改善点など自由に記述して下さい。

- 道後から松野町いきなりとんで、質問事項や調査したいことをじっくり考えたり、必要なものの準備が大雑把になった。現地では予定外のことも多かったが、それはそれで良かった。(学生①)
- 目的や最終的にどうしたいのか、など明確にしてから取り組むべき。文献も古かった。(学生②)
- 自然に親しんで良かったと思います(学生③)
- 調査内容をより細かく決めておく。(学生④)
- もっといろんなところに行きたい(学生⑥)

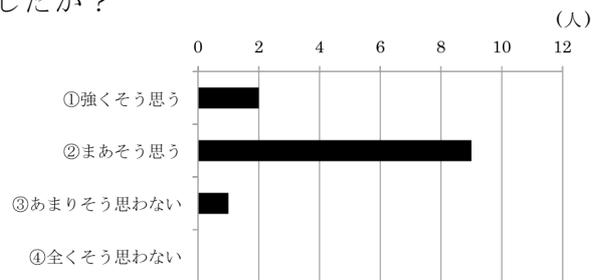
(5) 全体のスケジュール配分やペースは適切でしたか？



(6) 文献講読やフィールドワーク準備などの時間外学習は、あなたの負担でしたか？



(7) この授業は全般的に満足行くものでしたか？



(8) フォーラムの運営や内容について、改善点を一つ以上記述して下さい。

- 地域デザインフォーラムは、道後と松野に焦点をあてたが、道後がまとまらないうちに松野に移行したため、やりづらかった。個々では授業の目的を果たしているが、一つ一つの作業につながりを見いだせなかった(道後-松野の比較)。(学生①)
- いろいろと盛り込み過ぎていた。ひとつひとつがどこか独立しているように感じた。ただこなすだけという印象が強い。(学生②)
- 難しい文献を読むより、フィールドワークのように現地でいろいろ見たり聞いたりしたほうが勉強になると思う。(学生③)
- 各フォーラムの交流をもっとしたい。(学生④)
- 自分の地元についてそれぞれ調べて発表するのも楽しいかも。(学生⑤)

- 準備期間が欲しい（学生⑥）
- すこし道後の調査が多すぎるなど感じた。（学生⑦）
- まとめの時間が足りないと思います。もう少し時間を多くとっていただけるとありがたいと思います。（学生⑧）
- ディスカッションを活発にしていけるために調べ学習の時間を増やしたらいいと思う。（学生⑩）
- 松野町を中心にするのか、道後を中心とするのかよくわからないです。

4. 授業の改善点

1) 文献講読について

受講生はほぼ満足している様子であるが、内容に関する受講生からの発言が活発ではなく充実していたとは言い難い。授業者が司会進行をして発言が出やすいように発問を工夫したり、隣同士で感想など話してから発言を促したりするなど努力したが、改善できなかった。2回生5名と教員3名で実施した前期の本フォーラムでは、受講生が自由に考えを述べていたのと対照的である。受講人数が多くなるほど発言しにくい傾向にあると授業者は考えている。

改善方法としては、受講生の意見にあるように受講生の中で「報告者」と「コメンテーター」を設定することが有効かもしれないが、「報告者以外も文献を読んでおく必要がある」のコメントにあらわれているように、「報告者」と「コメンテーター」以外が積極的に参加しない可能性は残る。解決案として、eラーニングなどを活用し（本コースでは学習用の掲示板が設置されたWEBサイトがある）、事前に受講生全員が文献の感想や報告者への質問事項、ディスカッションしたい内容を、掲示板に投稿することを義務づけるという方法があろう。

2) 道後調査について

いくつかの点で授業者の計画が不十分であった。まず、聞き取り対象者探しに難航し（「愛媛大学の方に話すなんて・・・」と敷居の高いことを理由に敬遠された様子）、結局道後商店街振興組合の方にお話を聞くことになった。聞き取りの場所が組合事務局だったこともあり、学生達の関心も聞き取り対象者側からの説明も、道後の現在の観光振興に偏ってしまい、「生活者の視点」

からのまちづくりへの要望を聞き取るという狙いは達成できなかった。しかし、観光地として捉えられがちな道後について、「生活者」から見た姿を明らかにすることの意義は大きいと授業者は考えているので、方法については今後の課題としたい。

一方、「内容が大雑把になった」や「もう少し目的が見えると良かった」という受講生の意見があったが、聞き取り内容を検討・整理する十分な時間がなかったことが原因と考えられる。全体の時間配分のミスで、道後の調査では十分な学習効果が得られなかった。

3) 松野町調査について

二泊三日の松野町訪問では、行政や観光施設の関係者からの説明を全員同時に受けるという内容の予定だった。しかし、道後調査において、受講生から質問がほとんど発せられず受け身で終わっていたと感じたため、より主体的・能動的に学習できるようグループでの調査活動をメインに変更した。一方、松野町の観光施設や行政の関係者が、今回の訪問・調査に大変積極的に関わってくださり、滞在中には関係者からの説明・質疑にかなりの時間を当てることになった。このため、非常に充実した三日間となったが、逆に受講生にとっては三日間に得た情報・経験を整理するのに、十分な時間がなかったと思われる。

また、各地からのアクセスがよい大都市松山にあって歴史の古い道後地区と、交通の便が良いとは言えない中、観光地としては新興で過疎など山間部ならではの問題を抱える松野町を比較しながら考察するための対象地選定だったが、十分内容を深める時間的余裕がなかった。

5. まとめ

道後と松野町を調査することの位置づけが受講生には十分なされておらず、授業者も理解を促すのに十分な内容が実施できなかった。また、調査内容を整理・考察する時間的余裕がなく、受講生は努力して報告会や報告書で内容をまとめてくれたが、授業としては“やりっぱなし”に近い状態で終わっている。学習内容や対象を精選して、じっくり考える授業づくりを次期のフォーラムでは目指したい。